

2020年卒
Vol.01

10月1日時点の就職意識調査

キャリアス就活 2020 学生モニター調査結果 (2018年10月発行)

「3月採用広報開始、6月選考解禁」の4年目となる2020年卒者の就職戦線。引き続き売り手市場が予想されているが、2020年卒の学生はどのような特徴が見られるだろうか。キャリアス就活・学生モニターを対象に、10月時点での就職意識および就職活動の準備状況などを尋ねた。

(*前年同期は調査をしていないため前年値なし)

1. インターンシップの参加状況

- 回答者全体の87.2%が参加経験あり。参加社数は1日型で平均3.6社、5日以上は1.3社
- 参加時期は「8月」(84.1%)、「9月」(71.9%)に集中

2. インターンシップの情報源

- 「就職情報サイト」が9割超で突出。「就職情報会社主催のイベント」45.5%が続く

3. インターンシップに参加してよかったこと

- 「企業研究ができた」73.2%、「業界研究ができた」66.0%、「他の学生と交流できた」53.8%の順

4. 今後のインターンシップ参加予定

- 9割強が参加の意向(95.0%)。1日型への希望者が8割強(84.4%)。5日以上も過半数
- 今後参加したい時期は「12月」80.6%、「1月」72.6%の順。冬のプログラムを意識

5. 就活準備イベントへの参加

- 就活準備イベントへの参加経験者は80.1%。今後の参加予定回数は平均3.1回

6. 現時点の志望業界

- 志望業界が「明確に決まっている」19.8%、「なんとなく決まっている」45.9%
- 文系は男子「銀行」、女子「マスコミ」。理系は男子「電子・電機」、女子「医薬品・化粧品」

7. 就職活動の中心とする予定の企業の規模

- 「業界トップの企業」18.6%、「大手企業」38.3%。大手狙いの学生が過半数

8. 業界研究・企業研究の予定時期

- 業界研究に力を入れたい時期は年内までがピーク。企業研究は12月をピークに3月に急減

9. 就職活動への不安

- 「とても不安」「やや不安」の合計が約9割(89.9%)。女子は「とても不安」の割合が高い

調査概要

- 調査対象 : 2020年3月に卒業予定の大学3年生(理系は大学院修士課程1年生含む)
回答者数 : 1,048人(文系男子322人、文系女子350人、理系男子223人、理系女子153人)
調査方法 : インターネット調査法
調査期間 : 2018年10月1日~10日
サンプリング : キャリタス就活2020学生モニター(2016年卒以前は「日経就職ナビ・就職活動モニター」)

1. インターンシップの参加状況

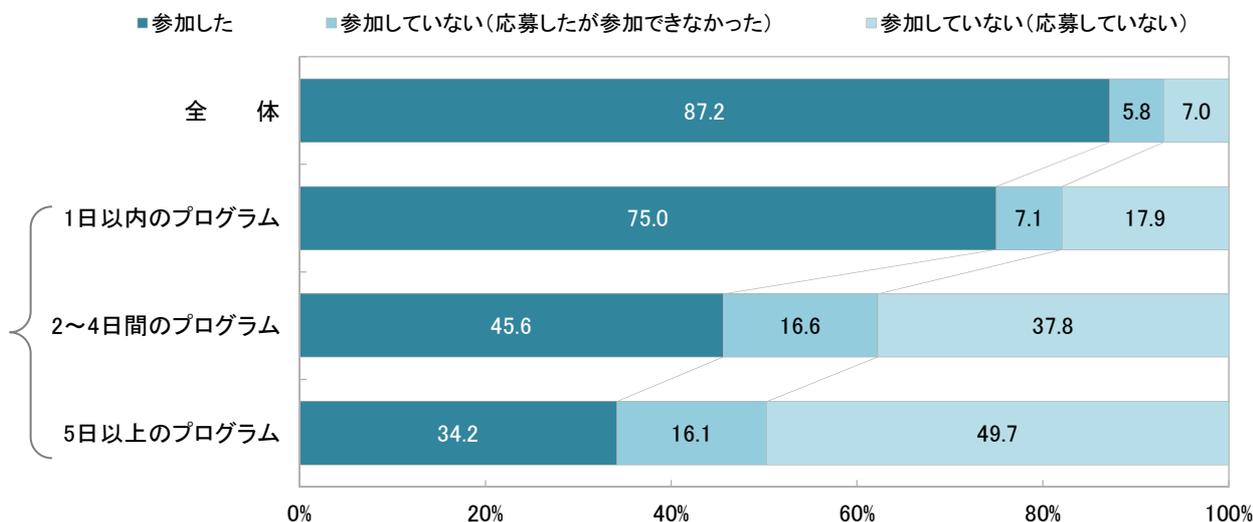
10月1日時点でのインターンシップの参加状況を尋ねたところ、参加経験がある学生はモニター全体の87.2%に上った。夏季インターンシップ実施企業が増加したことなどの影響もあり、早期から多くの学生がインターンシップを経験していることが明らかになった。

実施日数別に見ると、「1日以内のプログラム」への参加が7割超(75.0%)、複数日程のものに比べ圧倒的に多い。複数日程のものでは、「応募したが参加できなかった」が、それぞれ16%程度あり、事前選考にもれるなどで、希望者の3割程度は参加できていない。

参加社数の平均を見ても、「1日以内のプログラム」が3.6社と、複数日程のもの2倍以上に上り、ショートプログラムへの参加が中心であることがわかる。

なお、参加時期は「8月」(84.1%)「9月」(71.9%)に集中している。

<インターンシップ参加状況>

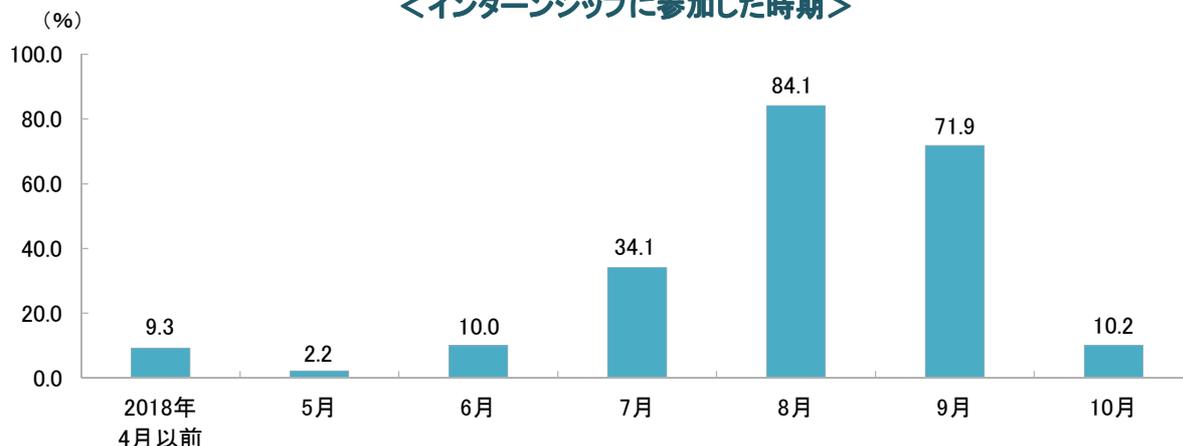


<インターンシップ参加社数/平均>

	全体	文系男子	文系女子	理系男子	理系女子
1日以内のプログラム	3.6	4.0	3.6	3.2	3.3
2~4日間のプログラム	1.7	1.8	1.7	1.5	1.5
5日以上プログラム	1.3	1.5	1.3	1.3	1.2

※それぞれの参加者が分母

<インターンシップに参加した時期>



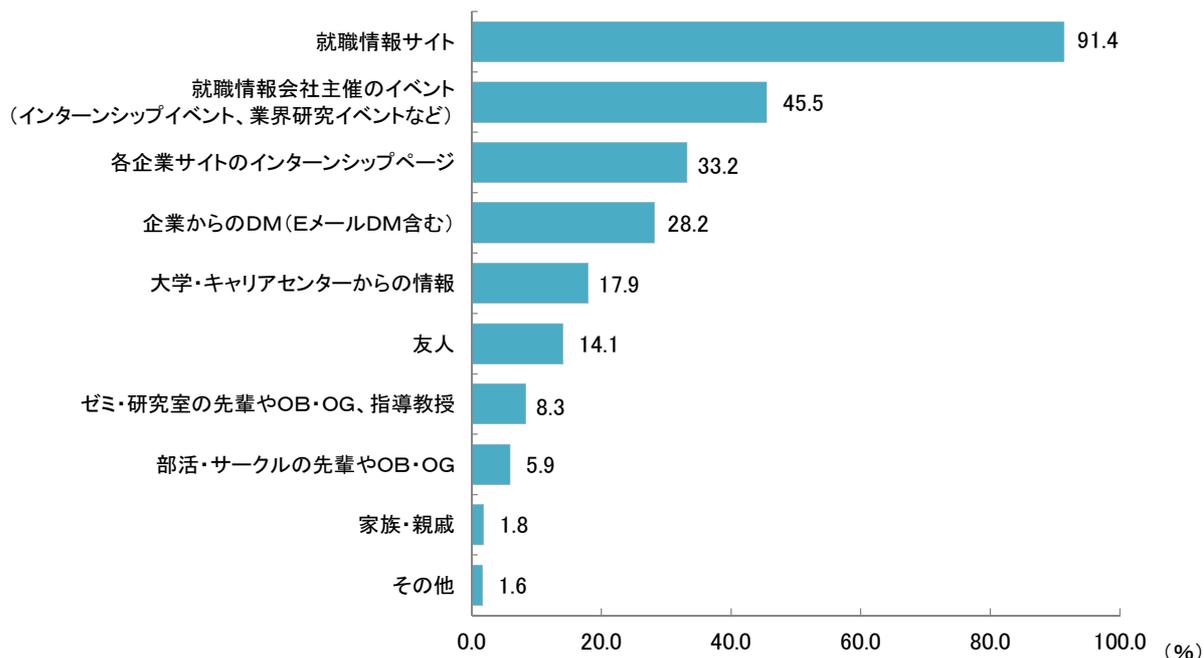
※参加経験者が分母

2. インターンシップの情報源

インターンシップの応募経験のある学生（全体の 93.0%）に、応募したインターンシップを知ったきっかけを尋ねたところ、「就職情報サイト」が 9 割超と突出している（91.4%）。次いで「就職情報会社主催のイベント」（45.5%）、「各企業サイトのインターンシップページ」（33.2%）と続く。

文理で差が見られ、文系は「就職情報会社主催のイベント」や「企業からの DM」のポイントが理系に比べ高く、理系は「ゼミ・研究室の先輩や OB・OG、指導教授」の割合が高い。

<インターンシップを知ったきっかけ>

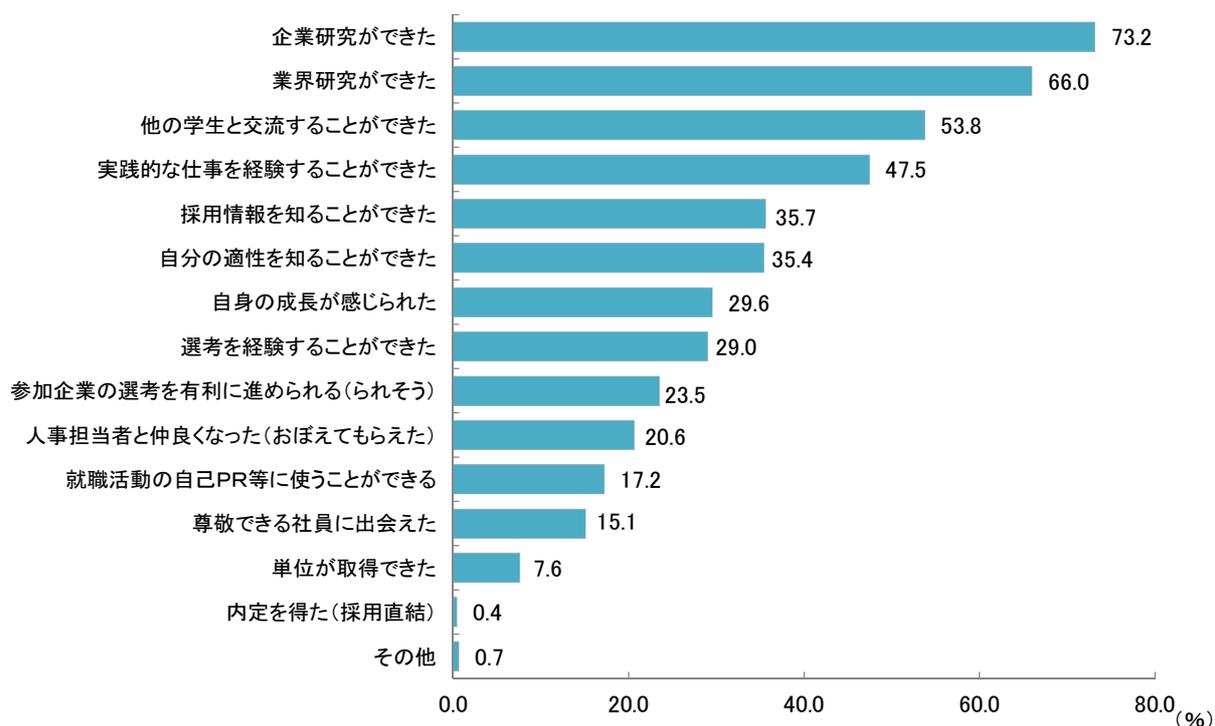


	(%)			
	文系男子	文系女子	理系男子	理系女子
就職情報サイト	92.1	91.5	89.9	91.9
就職情報会社主催のイベント(インターンシップイベント、業界研究イベントなど)	52.2	48.5	37.2	37.6
各企業サイトのインターンシップページ	38.1	30.2	32.4	31.5
企業からのDM(EメールDM含む)	33.7	32.3	19.8	20.1
大学・キャリアセンターからの情報	19.9	17.4	15.9	18.1
友人	17.2	13.1	15.0	8.7
ゼミ・研究室の先輩やOB・OG、指導教授	4.8	4.9	15.9	12.1
部活・サークルの先輩やOB・OG	8.6	6.7	4.3	1.3
家族・親戚	2.1	2.1	1.4	1.3
その他	1.4	2.1	1.0	2.0

3. インターンシップに参加してよかったこと

インターンシップ参加経験のある学生（全体の 87.2%）に、インターンシップに参加してよかったことについて尋ねたところ、「企業研究ができた」（73.2%）が最も多く、次いで「業界研究ができた」（66.0%）が続いた。4 番目の「実践的な仕事を体験することができた」も半数近くに上っており（47.5%）、プログラムを通じて、企業や仕事への理解を深めた学生が多いことが読み取れる。また「他の学生と交流することができた」も半数を超えており（53.8%）、グループワークなどを通じて他大学の学生から刺激を得た学生も多かったようだ。

<インターンシップに参加してよかったこと>



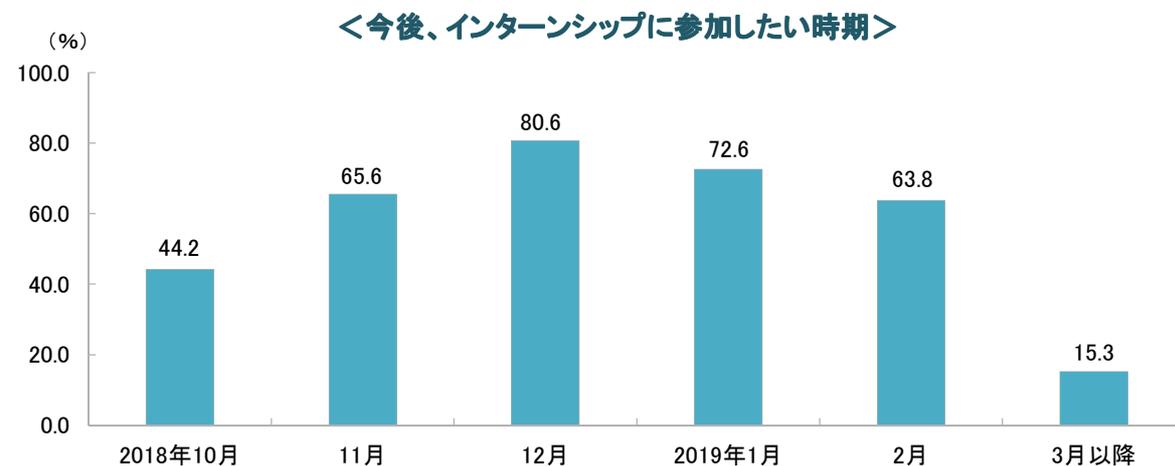
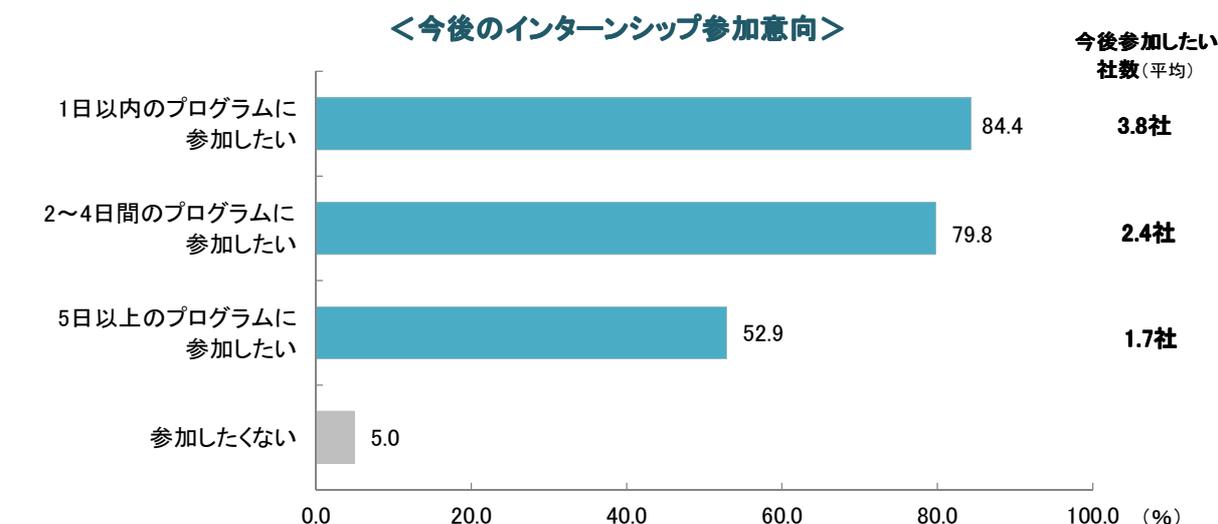
■印象に残っているプログラム

- 学生に対して多くのメンター社員の方がついてくれたグループワークや、しっかりとフィードバックをもらえる個人ワークがとても勉強になりました。 <文系女子>
- 社員との昼食時に質問できたことが、特に良かった。 <理系男子>
- 中小企業で、アットホームな雰囲気を体感したことや社員と肩を並べて実務経験ができたこと。 <文系男子>
- 5 日間宿泊型で行われ、毎日朝から夜遅くまで意見交換をできました。国内でもかなりレベルの高いであろう学生達と一緒にプロジェクトに取り組んだことで相当な刺激になりました。 <理系男子>
- 1 つの課題が与えられ、それに対して複数日じっくり取り組めるインターンシップは、業界・企業への理解も進んで印象に残っている。 <文系男子>
- 実際の事業に関するグループワークをしたことで、今までの企業イメージがかなり変わった。 <文系女子>
- 5 日間で簡単な機械設計の業務体験をさせてもらった。社員の方から、設計する上で気を付けなければいけないことや、仕事に必要なコミュニケーションのことなどを具体的に教えてもらったことが大変勉強になった。 <理系男子>
- ゲームのような内容よりは、実際の業務を見学などさせてもらった方が身になると思う。 <文系男子>
- 実際に新人研修と同じ実習をさせてもらえ、その場で評価をフィードバックしてもらえたこと。社会人としてのシビアナ評価が実感できた。 <理系女子>

4. 今後のインターンシップ参加予定

今後のインターンシップについて、「参加したくない」と回答した学生は5.0%にとどまり、9割強が参加意向を示した(95.0%)。開催日数別で見ると、「1日以内のプログラム」への参加を希望する学生は8割強(84.4%)。「2~4日間のプログラム」も8割近くに上り(79.8%)、開催期間が短いものほど参加意向が強い傾向。ただし「5日以上プログラム」も半数を超えており(52.9%)、様々なタイプのインターンに参加したいと考えている様子が見えてくる。

具体的に参加したい時期を尋ねると、最も多いのは「12月」で約8割(80.6%)。これから募集が始まる冬のインターンシップに意識が向いている学生が多いことが読み取れる。年内に多くの企業や業界を知り、就職活動準備を進めたい学生の意向が見えてくる。



■インターンシップに参加したい理由

- グループワークが中心だったとしても、社員の雰囲気やその企業の雰囲気など、文章だけではわからないことがわかるから。 <文系女子>
- 今後エントリーシートを出す際に知識や情報を活用できるし、面接で関心の高さをアピールできる要素になるため。 <文系男子>
- 採用に関わる社員と知り合えて、自分の人となりを知ってもらえるから。 <理系女子>
- 入社したときのギャップなども少なくなり、最終的に就活に失敗する可能性が低くなると思う。 <理系男子>

5. 就活準備イベントへの参加

就職情報会社が主催する就活準備イベント（インターンシップイベント、業界研究イベントなど）への参加状況を見ると、全体の8割（80.1%）が「参加経験あり」と回答。多くの学生が早期から会場に足を運んでいる。一人あたりの平均参加回数は3.1回。

参加が最も多かったのは「6月」で、夏季インターンシップに向けたイベントが多数開催された時期とも重なる。こうした準備イベントの多くは、企業の採用担当者や現場社員の話を聞くことができるため、インターンシップ情報の収集だけでなく、業界研究や企業研究にも役立てたいと考える学生が積極的に参加していると思われる。

今後の参加予定回数の平均は3.3回。文理とも男子が女子を上回る。参加を予定している時期は「11月」「12月」が6割を超えて多い。

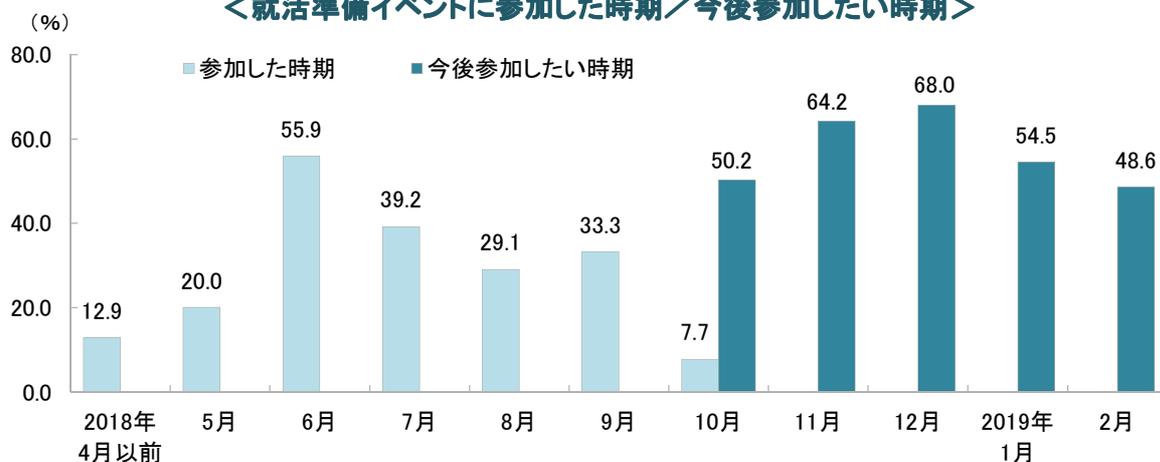
<就活準備イベントへの参加経験>

	全体	文系男子	文系女子	理系男子	理系女子
参加経験あり	80.1	81.7	83.1	74.4	77.8
参加経験なし	19.9	18.3	16.9	25.6	22.2

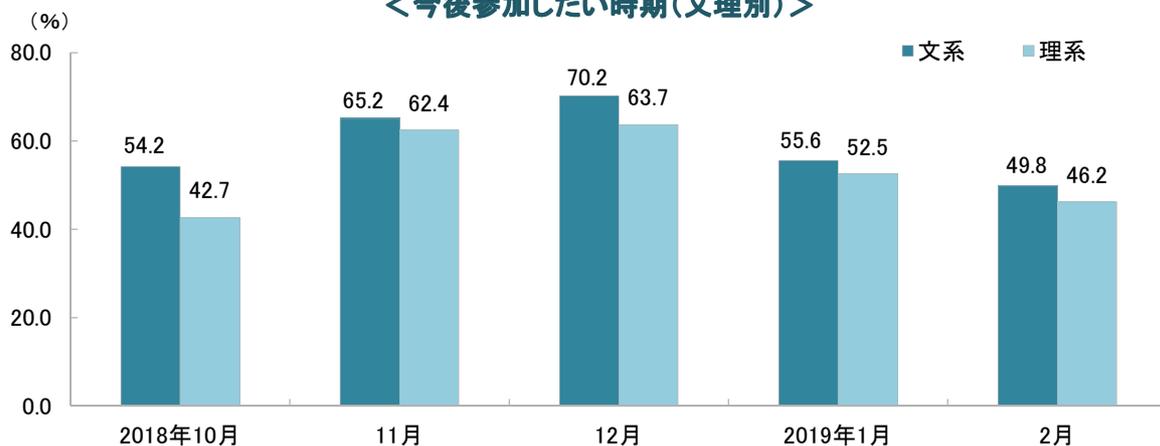
<就活準備イベントの参加回数>

	全体	文系男子	文系女子	理系男子	理系女子
これまでの参加回数(平均)	3.1	3.6	3.1	2.9	2.6
今後の参加予定回数(平均)	3.3	4.0	3.3	2.7	2.6

<就活準備イベントに参加した時期／今後参加したい時期>



<今後参加したい時期(文理別)>



6. 現時点の志望業界

志望業界について尋ねたところ、「明確に決まっている」という学生が約2割 (19.8%)。「なんとなく決まっている」(45.9%)を合わせると、10月上旬時点で6割強が志望業界を決めていることがわかった (計65.7%)。特に理系において決定率が高い。

志望業界を 40 業界の中から 5 つまで選んでもらい、文理男女別に順位を出してみた。文系は男子の 1 位が「銀行」で 2 位は「調査・コンサルタント」、女子は「マスコミ」「ホテル・旅行」の順。文系男子 1 位の「銀行」は女子では 3 位だった。

理系を見ると、男子は 1 位「電子・電機」の後に、「情報・インターネットサービス」「情報処理・ソフトウェア」と続き、IT 業界への関心の高さが表れている。理系女子は半数近く (46.3%) が「医薬品・医療関連・化粧品」を選ぶなど、ポイントが集中している。

<志望業界の決定状況>

(%)

	全体	文系男子	文系女子	理系男子	理系女子
明確に決まっている	19.8	18.0	16.6	24.2	24.8
なんとなく決まっている	45.9	49.7	39.4	50.7	45.8
決まっていない	34.3	32.3	44.0	25.1	29.4

<志望業界(上位 20 業界)>

※5つまで選択 (%)

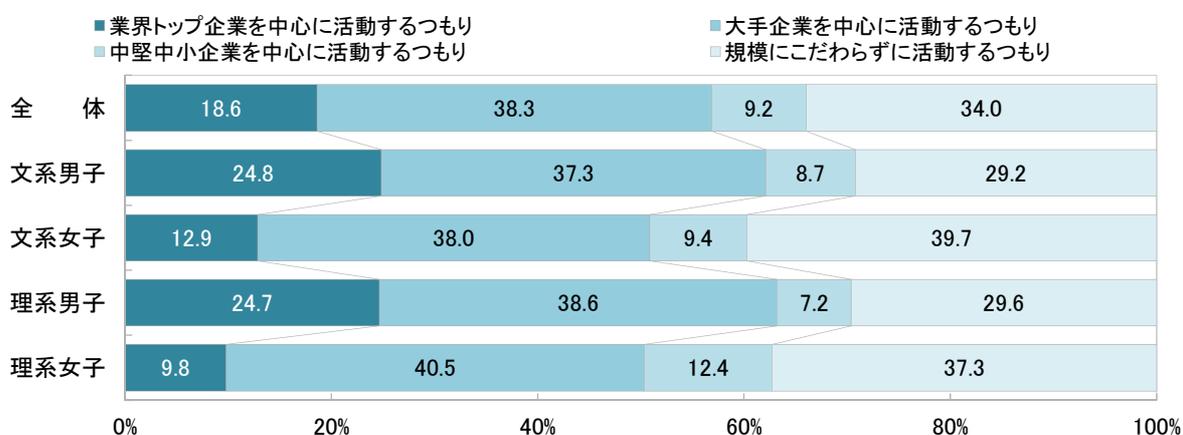
文系男子		文系女子		理系男子		理系女子	
1	銀行 27.5	1	マスコミ 27.6	1	電子・電機 28.1	1	医薬品・医療関連・化粧品 46.3
2	調査・コンサルタント 25.2	2	ホテル・旅行 20.4	2	情報・インターネットサービス 24.6	2	素材・化学 35.2
3	商社(総合) 23.9	3	銀行 19.4	3	情報処理・ソフトウェア・ゲームソフト 22.8	3	水産・食品 32.4
4	マスコミ 17.9	4	商社(総合) 17.3	4	自動車・輸送用機器 20.4	4	精密機器・医療用機器 14.8
5	官公庁・団体 15.1	4	水産・食品 17.3	4	素材・化学 20.4	4	官公庁・団体 13.0
	建設・住宅・不動産 15.1	6	建設・住宅・不動産 14.3	6	機械・プラントエンジニアリング 19.8	5	建設・住宅・不動産 13.0
7	情報・インターネットサービス 13.8	7	医薬品・医療関連・化粧品 13.8	7	医薬品・医療関連・化粧品 18.6	7	電子・電機 13.0
8	運輸・倉庫 13.3	8	情報・インターネットサービス 12.8	8	調査・コンサルタント 16.2	8	情報・インターネットサービス 12.0
9	保険 12.8	9	情報処理・ソフトウェア・ゲームソフト 12.2	9	水産・食品 15.6	8	情報処理・ソフトウェア・ゲームソフト 12.0
10	証券・投信・投資顧問 11.0	10	運輸・倉庫 11.7	9	精密機器・医療用機器 15.6	8	ゴム・ガラス・セメント・セラミックス 11.1
	情報処理・ソフトウェア・ゲームソフト 11.0	10	教育 11.7	11	建設・住宅・不動産 13.2	10	商社(総合) 11.1
12	教育 10.6	12	人材紹介・人材派遣 11.2	12	エネルギー 12.6	10	調査・コンサルタント 11.1
13	ホテル・旅行 10.1	12	調査・コンサルタント 11.2	13	通信関連 8.4	13	エネルギー 9.3
	水産・食品 10.1	14	官公庁・団体 10.7	14	鉄鋼・非鉄・金属製品 7.2	14	マスコミ 6.5
	エネルギー 9.6	14	保険 10.7	14	農業・林業・鉱業 7.2	14	商社(専門) 6.5
15	自動車・輸送用機器 9.6	15	エンターテインメント 8.7	15	運輸・倉庫 6.6	15	その他サービス 5.6
	商社(専門) 9.6	16	その他サービス 8.7	16	官公庁・団体 6.6	16	自動車・輸送用機器 5.6
18	信販・クレジット・ファイナンス 7.8	18	信用金庫・労働金庫・信用組合 7.1	16	商社(総合) 6.6	16	鉄鋼・非鉄・金属製品 5.6
	素材・化学 7.8	18	百貨店 7.1	19	ゴム・ガラス・セメント・セラミックス 6.0	16	農業・林業・鉱業 5.6
20	人材紹介・人材派遣 6.0	19	自動車・輸送用機器 6.6	20	銀行 5.4	20	機械・プラントエンジニアリング 4.6
	電子・電機 6.0	20	商社(専門) 6.6			20	通信関連 4.6
			素材・化学 6.6				

7. 就職活動の中心とする予定の企業の規模

就職活動の中心とする企業の規模を尋ねたところ、「業界トップの企業を中心に活動するつもり」18.6%、「大手企業を中心に活動するつもり」38.3%で、いわゆる大手狙いの学生が過半数に上る（計56.9%）。大学入学時には就職戦線はすでに売り手市場と言われており、そうした環境が大手志向に繋がっていると想像できる。また、経団連企業の日型インターンシップが昨年から解禁されているが、今夏実際にインターンシップに参加し接点をもったことで、大手企業への就職志望度を高めた学生もいるだろう。

これを文理男女別に見ると、女子は「規模にこだわらずに活動」と答える割合が高く、文理とも4割近い。これに対し、男子は「業界トップ」「大手企業」の割合が女子に比べ高いなど、男女で志向の差が見られる。

<活動の中心とする予定の企業規模>



■「業界トップ企業」を中心に活動する理由

- 業界トップ企業には、ほとんど新卒でしか入社する機会がないと思っているとともに、大きな事業に関われると考えているため。 <理系男子/メーカー志望>
- そんなに企業について知っているわけでもないのに、とりあえず業界トップのインターンなどに参加することで、その業界についての知識をつけていきたいから。 <文系女子/商社志望>
- 業界トップの安定した企業に就職して両親を安心させたい。 <文系男子/建設・不動産志望>

■「大手企業」を中心に活動する理由

- インターンシップに参加してみて、大企業の方が制度が充実しており、実際に活用している人も多かったから。 <文系女子/マスコミ志望>
- 大手企業でないと東京オリンピック後の不景気の波に耐えられるか心配だから。 <文系男子/志望業界未定>

■「中堅中小企業」を中心に活動する理由

- 大手だと競争率が高いし、中堅中小企業でも、優良な会社はたくさんあるから。 <文系男子/志望業界未定>
- 転職リスクの少ない、地元就職を考えているため。 <理系女子/メーカー志望>

■「規模にこだわらず」活動する理由

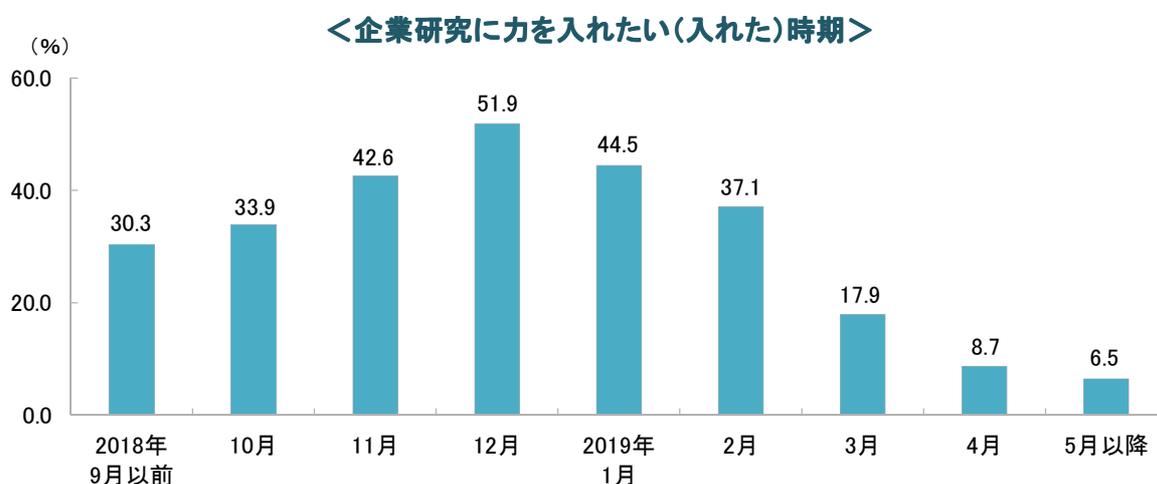
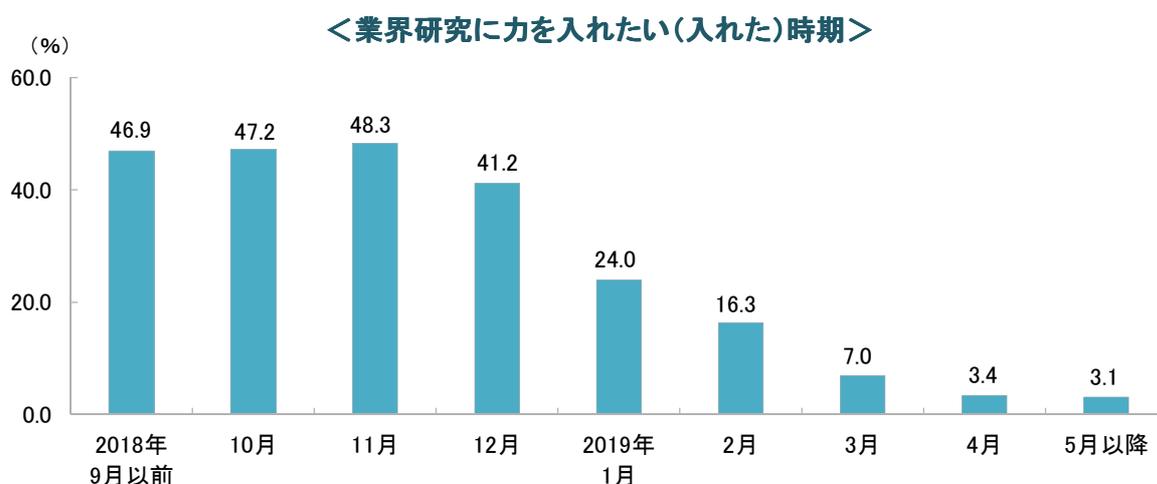
- 本当に働きたいと思って、かつホワイトな企業であれば、規模にかかわらず行きたいと思っているから。 <文系女子/IT志望>
- 色んな目線で様々な企業を見ることで、自分に適した企業を見つけられるかもしれないから。 <理系男子/メーカー志望>

8. 業界研究・企業研究の予定時期

学生は今後の就活準備をどのように考えているのだろうか。業界研究と企業研究について、それぞれ力を入れたい時期を複数回答で尋ねてみた。

まず「業界研究に力を入れたい時期」は「11月」が最も多いが(48.3%)、「9月以前」から「12月」にかけて4割を超える数字が続いている。一方、「企業研究に力を入れたい時期」は、「12月」(51.9%)を頂点に緩やかな山が形成されているが、「3月」にはポイントが急減する。

学生のコメントも考え合わせると、夏から秋にかけて業界研究を進め志望業界を固めたうえで、年内に企業研究に取り組み、3月の採用広報解禁までにある程度志望企業を絞りたいと考えている学生が多いようだ。



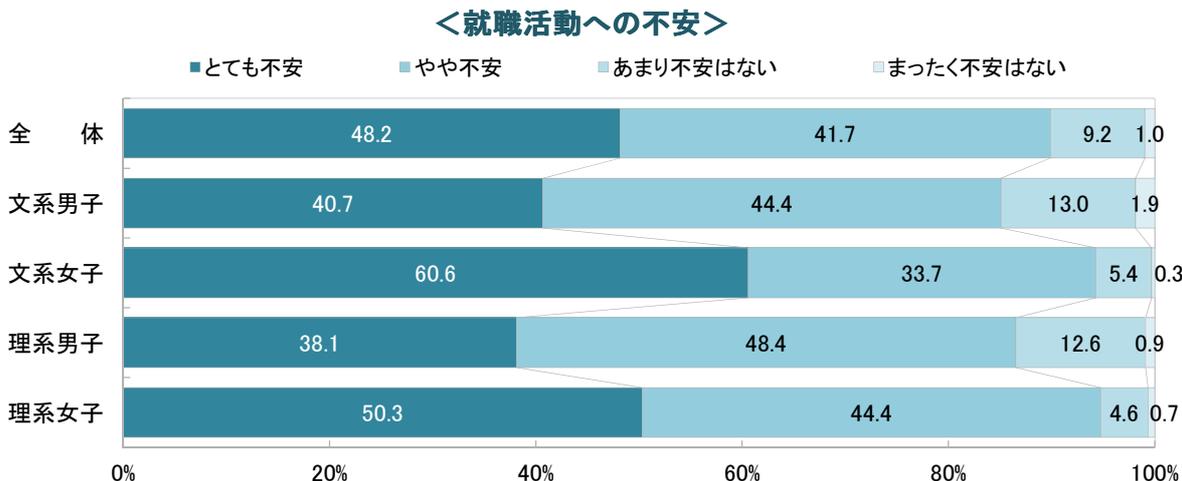
■業界研究・企業研究のプラン(進め方)

- 業界研究については、来年3月の本格的な就職活動解禁前に一通り終わらせていたい。企業研究についても、業界研究と同時並行で進めていき、3月以降はさらっと見返す程度にしたい。 <文系男子>
- そろそろ業界研究を始めないといけないと思うので、2カ月くらいでいきなり業界を大まかに絞り、そこからその業界の企業研究をしたいと考えています。 <文系女子>
- 比較的時間のとれる夏休み中に力を入れて就職の準備をしようと思い、8月から始めました。業界研究は、実際に先輩の生の声を聞いたり、インターンシップで直に体験したりして進めたいと考えています。 <理系男子>
- 企業と接触するイベントはすべて業界研究、企業研究になると思います。2月以降は面接対策やESに力を入れたいです。 <理系女子>

9. 就職活動への不安

最後に、自身の就職活動に不安を感じるかを尋ねた。「とても不安」と「やや不安」を足し合わせると不安を感じている学生は約 9 割に上る (89.9%)。文系女子では「とても不安」が 6 割を超えるなど (60.6%)、女子のほうがより不安を感じていることがわかる。

具体的には、多数の企業の中から自分に合う企業を探せるか、志望企業から内定を得られるか、という不安を訴える声が多く見られた。



■具体的に不安に思っていること

- 選考に関してあまり不安はないが、自分に合った企業を最終的に選べるか不安。 <文系男子>
- 専攻する学科の分野に就職するのか、専攻はしていないが興味のある分野、業界に就職するかで迷っている。 <理系男子>
- 行きたい企業や業界に自分の大学の OB・OG がいないので不安です。 <文系女子>
- サマーインターンの選考で志望する企業のほとんどに落選してしまった。本選考でこのようなことにならないか心配です。 <文系男子>
- 業界を絞りすぎてしまっていること。 <文系女子>
- 今は大手ばかりをみているが、自分がちゃんと就職できるか不安。 <理系女子>
- 地方の大学なので、東京での就職活動は不利なのではと不安になる。 <文系男子>

■就職活動に関して、今知りたいこと・欲しい情報

- 秋インターン、冬インターンのおすすめや、これからどの業界が伸びるのかなど。 <文系男子>
- 有名ではないが、堅実に成長しており、ホワイト企業であるような企業の特集。 <文系男子>
- 自分の大学の先輩で、同じ業界を志望した方のお話を聞きたいです。また、内定の時期が気になるので、それも聞きたいと思います。 <文系女子>
- どのくらい業務量があるのか、業界の良い面だけでなく、こういうところを我慢できないと厳しい、といった情報も知りたい。 <文系男子>
- 採用の開始時期やどのような人材を求めているのかを詳しく知りたい。 <文系男子>
- 限られた時間でたくさんある会社の中から働く企業を選ぶ方法。 <文系女子>
- 理系の細かい専攻分野に対応した就活情報。 <理系女子>
- どういう基準で採用を決めているのか。また、やる気、熱意はどの程度重要視されているのか。 <理系男子>
- 女性のキャリアについて。単純に産休や育休だけではなく、どのようなキャリアを積んだ女性がいるのかということについて知りたい。 <文系女子>